

キララ冬の学校

2008年1月4日～7日

春の学校

2008年3月29日～4月2日

文集



主催

キララ新聞社

白州郷牧場

冬の学校

新春1月4～7日の間、きらら冬の学校が開校されました。子供の参加人数は17名、全体的にゆとりのある学校だったと思います。夕飯の時間もコンスタントに18時と早く、夜も時間的余裕が持てました。

参加人数はやや少なめではありませんでしたが、充実した学校ができたと事務局一同思っています。

〔二月四日〕

開校式（初詣）

行きの電車から元氣いっぱい、初参加の子供は1人でしたが電車の中から馴染んでいたようです。到着後に昼食を取り、開校式。班分け後に恒例の駒ヶ岳神社に初詣。神社では、この神社は何を祭っているのか、また、なぜ初詣をするのかという奥地先生の話がありました。

餅つき

神社からの帰り道、2～3年生の男子3人は恒例の大せんぎ（大昔からの水路）を散策しました。せんぎをつたって図書館裏の林からセンターへ・・・大盛り上がりでした。一見ただのミニ探検

ですが、子供達は毎回エキサイトするのです。

研修センターに戻ると餅つき開始、子供達も一通りみんなつきましたが、1回目のついた餅を根こそぎ平らげて満足のような様子でした。堀内さんとターチが大活躍！

作務

5～6年生の女の子（井上・里香班）は見田さんの麴の講座。それ以外の子供達は採卵と牛の世話。

夕飯作り

麴の講座を終えた子供達の手伝いでお雑煮や、なんだか豪華なおかずが並びました。

音楽プログラム

～駒と遊ぼう！～

秋の学校で大好評だった「木と栗鼠」というゲームなど、今回もまた怒って泣き出す子がでるといいうくらいにみんな大興奮。

天体観測

秋に引き続き、奥地先生と小原さんによる天体観測。冬の星座、火星などを観測。

白州シアター

「ソイレント・グリーン」

内容はともかく、少しホラーっぽい映像に怯える子がホームシックと合わせて大泣きするなど子供達の反応はそれぞれでした。

〔二月五日〕

朝食（作務）

7時半に朝食、作務へ。2～4年生の女の子（澄兄・高橋班）は大型鶏舎に入るも、鶏が怖くて1歩も動けず採卵不能に。夏の学校に参加した子がいたので、「夏の学校では採卵したじゃない？」と聞くと、「やってない、インゲンばかりやってたよ」と怒られました。たしかにそうだった。（苦笑）

作務の帰りは恒例のセリ田でスキー。比較的暖かい日が続いていたので凍結具合を心配しましたが、だいたい凍っていて、一部は踏ん付けて割れるという遊びも含め、大喜びで遊ぶ子供達でした。

スキー

富士見高原パノラマスキー場へ。スキーのできない小学生が1人、中学生が1人。午前中は町田さんが丁寧に教え

てくれて、午後には1人で滑れるようになっていました。

奥地さんが多聞くん・信之介くん・と繰り広げたドラマは、奥地さん自身の手記で発表されます。

作務

スキーから帰りしばし休憩後に作務（採卵、牛の世話）へ。井上・里香班は見田さんの麴講座。6年生の男子（光・ケンケン班）は採卵の後のパックも最後まで手伝ってもらいました。大人の中からも一生懸命やっていました。





にできたのかの講義。いい講義で、子供達も色々質問していました。その詳細は文集で。

白州シアター

「ジェイミー・キッチン」イギリスの人気テレビ番組で、ジェイミー・オリバーという料理人が、15人のいわゆるニートやドロップアウトした人達を集め短期間で修業を積ませシエフに育て、1年以内でのレストラン開業を目指すという話です。

料理を通じて、働くことの大変さ、社会の厳しさ、仲間の大切さを教える内容がどのように子供達に伝わったのでしょうか。子供達は真剣にみていました。

〔二月六日〕

朝食／作務

前日のスキーマの疲れもあったのか、寝坊する子が目立ちました(嘘芝居?)。採卵の後はサンチュの収穫へ。

味噌作り)

根菜を食べよう)

コロッケ作り

中庭にて、大豆を煮、手廻しのミンチ器で潰し、みんなで捏ねる。味噌玉を作

り、力いっぱい樽へ投入！味噌玉を投ずる裕美さんに若干の殺意を感じた子供達でした。

味噌を作る傍らで、牛蒡、サツマイモ、里芋、人参、などをアルミホイルに巻いて釜戸に入れて焼きました。牛蒡はかなりの人気でした。

味噌の伝来や根菜はなぜ温まるか、体に良いかなどの説明があった後で、コロッケ作りに入りました。

本当は夏の学校で採れたジャガイモを一から洗うという作業から始めたかったのですが、こちらの準備不足もあり、具を成型↓小麦粉付↓卵(ドロ付)↓パン粉付という流れ作業を全員でやりました。できたコロッケの数は約300個。

作務

井上・里香班は麴く採卵、その他は採卵。やつと澄兄・高橋の女の子達が卵を採り始めました。

温泉

白州ベルガの温泉へ。短い時間で流れよくスムーズに入ることができました。

夕飯

もちろんコロッケ(80個消費)、その

他根菜を炊いたものなど。

校長講座

「飢え」について知ろう

考えよう

世界の飢餓の話。生産される食物の量と廃棄されていく食物の量。子供達は真剣に聞き入っていた様子です。食物をめぐる世界の矛盾は大人の学習会がもっと必要です。

〔二月七日〕

朝食／作務

きさら流の七草粥は、「スズシロ、ほうれん草、青梗菜、三つ葉、サンチュ、蕪、キャベツ」。

お土産に去年の冬の学校で作った味噌、ジャガイモ、さつまいも、を頂きました。いつもならば帰りの電車では大半の子が眠ってしまうのですが、眠る子が1人もいなくて騒がしい帰郷となりました。

秋山 澄江

夕飯

カレーライス・・・黙っていてもみんないっぱい食べます。

奥地講座

最初にビデオ「世界大紀行」から、エベレスト山脈やアルプス山脈ができた歴史を鑑賞。

その後にエベレストやアルプスと比較しながら、白州の花崗岩の山がどのよう

来年は、竹スキーと

下駄スケートと！

秋山眞兄

キララの冬の学校では、ゲレンデ・スキーが恒例になっている。スキーが初めての子どもの上達も驚くほど早く、冒険までしてくれてヒヤツとすることもなくはないが、みんな楽しそうに過ごしている。

私が小学生の頃は東京でも雪がかなり降り、毎冬、3回くらいはスキーが出来るほど降った。「東京でスキー？」と思うかもしれないが、私の住んでいるところは坂が多く、特に我が家の前の「三の坂」は急坂で知られていて、スキーのメツカであった。

スキーが出来るほど雪が積もると、近所のお兄さんの本物のスキーにまじって、小さな私たちは竹スキーで坂を滑った。竹スキーは、長さ80cm程度の太い竹を4つに割り、節のところをナイフで平らにし、ローソクや炭にあてて前方の方を折り曲げ、最後に曲がった先のところを錐(きり)で穴を開け、太いタコ糸で二本をつなげて完成する。長靴を竹にのせ、タコ糸をつかんで滑りおりののである。まつすぐ滑れなかったり、止まれなかったりすると、坂の両側や坂下の

道の脇にあるドブ川に突っ込むことになる。また、ひびが入った竹スキーは、みかん箱の底に釘で打ちつけ、櫓(ソリ)にして遊んだ。数十センチの雪が積もっても、雪かきが始まれば滑れなくなるので、かいた雪も使って庭に雪を積んで短いジャンプ台を作って竹スキーで飛んだものである。

ところで、「雪かき」であるが「雪かきは向こう1間まで」という言葉をしているだろうか。当時の東京では(他の所も同じなのだと思うが)、雪かきは自分の家の前だけではなく、両隣の家の前まで道へ1間(2m弱)だけ入り込んだところまで雪かきをするのが礼儀であった。もちろん、何処かの家が雪かきを始めれば次々と始まるので、実際に「向こう1間」まで雪かきをすることはそれほど多いわけではなかったが、それが地域の常識であった。最近では、我が家の隣はおばあさんの一人暮らし、2軒先はおばあさん姉妹が二人暮らしで、しかも、そのおばあさんたちは、私が子どものときにかわいがられたこともあり、「向こう1間」どころか「両側、向こう8(?)間まで」をすることになった。雪の降る回数も量も少なくなつたので助かっているが、昔と同じであつたら、毎冬、ぎっくり腰で悩んでいたかもしれない。

ともかく、冬の学校の間に雪が降つ

たときには、今度は竹スキーで遊ぶのも悪くないなと考えている。そして、凍ったセリ田での下駄スケート。下駄スケートは、私が高校生の時代に長野県佐久地方で覚えたものであるが、これもやらしてみたいと思っている。

2008年冬の学校の感想
と、今年の抱負

高草木里香

今年の冬の学校は、本当に心も体も養つた学校であつたと思います。みんなでよく食べ、みんなでよく料理し、みんなでよく働き、遊び、遊んだ。餅つきに始まり、根菜料理、コロツケ、七草粥。一方で、世界で食べられない子がいることも勉強しました。白州シアターも、「ジェイミーズキッチン」「ソイレントグリーン」と食に関する映画となりました。

白州常駐スタッフの日ごろの食卓も、最近みるみる質が高くなり、充実しています。ごはん、味噌汁が基本。かめ



ばかむほどおいしい玄米が人気です。朝はやつぱりたまごかけご飯。農場の新鮮で豊富な野菜。見田さんの漬物。皆で生協にはいって、食事当番で朝、昼、夜、ちゃんとつくっています。最近では、みなの手際が急激によくなり、準備に時間もかかりません。「:GO:」に「いただきます」の声があがります。

先日、食品添加物のトップセールスマンだった阿部司さんの講演を聞きました。「食品の裏側」という本を出しています。わたしたちの食生活がどれだけ添加

物によってつくられているかを、初めて知りました。わかっているつもりでいたのですが、ここまでと思っていなかったのです。

講義で学んだことは、

・本物を使わなくても、食品添加物は何でもつくられるようです。(コーヒーフレックシユヤとんこつスープ、ジュースなど)というか、合成された味を、本来の味と違ってしまっている場合がかなりあるそうです。(辛子明太子など)

・便利・きれい・簡単・安い裏にあるのは、人件費の安い遠い国からのものすごい移動距離。濃い濃い味付け。保存料、調味料等の添加物。結果、大量の塩分、糖分、油分をとることに、病気にまっすぐ、ゴールイン。

・本物を食べたことがないと、味覚が発達できずに、にせもの・つくりものと違いがわからなくなってしまう。だから子供の頃から、加工食品、だしの素に慣れてしまうのはとても危険。

ということでした。

「いいじゃない、便利なんだから。簡単なんだから。きれいでしょ？」

子供がきれいだっていいじゃない？それまで美しく暮らしてたんでしょ？なぐさめてあげるから」

阿部さんはどつちが悪いとはいいません。でも便利な生活の裏で失っていることが確かにある。ということ、ぐさりとついでくるのです。笑うセールスマンみたいだったら想像つくでしょうか？

正直言つて、わたしも胸をはれたものではありません。今は農場のご飯をいただいているからきちんと料理しているけれど・・・それ以前のことを言わすのは、どうか勘弁してください。今だって、作業が忙しければスパーの弁当のお世話になっていたし、出張にいけばオニギリやサンドイッチにお世話になります。

でも、ちよつと時間かければいいだけのことをやらないで済みますことと、失うものの大きさの差は、アリと像がシーソーに乗ったところの差ではない、失うものの大きさは皆目検討がつかないことがわかりました。

昨年、日本は、中国に鮭を買い負けたそうです。それは値段でなくて、日本人はうるさいこといろいろいうから。切り

身は同じ重さで、すべてに脂がのつていなきゃとか。そういうこというから、人件費の安い、地球の裏側から、食料もつてくることになるのだそうです。不ぞろいの野菜だつて、上手に切つて、調理できる技を磨くほうが、食糧を地球の裏側からもつてくるより、ずっと確かなことです。

それから、加工品だつて、なんだつて、基本は、食べ物を無駄にしないこと、感謝していただくこと。

キララの食卓には加工食品は皆無、農場の食材をたっぷりつかつて料理されます。今年の冬から駒さんの提案により、丸ごと蒸し野菜が食卓にのびりました。

今まで、白州の農場で当たり前にしてきたことを、私たちスタッフは感謝していかねければいけないと反省しました。子供たちに伝わるくらいに！

これでは念頭の反省文のようになってしまふので、話しを移しますが、事務局では今、内田樹さんの本を皆で読み、勉強しています。内田さんは、なぜ子供たちが学ばないのか、働かないのかという

問いに対し、子供たちが生産主体でなく、消費主体で自己を形成していると言っています。つまり、自分が、何か大人のお手伝いをして、役に立って、喜ばれ、認められ、自分の存在を見出ししていくのでなく、たとえ子供でもお金さえ持っていれば店員にいらつしやいませと言われる、大人と変わらずに買い物ができる一人の消費者として自分の存在を見出すということ。だから、学ぶという行為も、教育サービスの等価交換となり、学ばなければならない理由が今の自分に見つからないから学ばない、労働に対しても自分にとって適正な評価がされないから、働かないと。

そうなると、自ら何かを生み出すことができないうことになります。他人から与えられたものを買うことしかできない。つくりだす過程の楽しさも知ることができない。

さらには、もしもお金がなくなつたらどうするのでしょうか？

わたしたちは何かをつくれるってことをもつと胸をはって、自慢していかなくやいけなうと思ひます。何だつていいんです。なんでも消費消費になつてしまつた、こんな時代だからこそ、意識的

に自慢していききたいのです。

この学校では、味噌をつくりました。麴を育てました。火を焚きました。餅をふかして、つきました。コロッケをつくりました。みんなでわいわいゲームの場をつくりました。

「先生は相変わらず、おやじギャグと駄洒落を連発していましたが、これも造りだす作業といえましょう。

これってすごいことなんだと思います。普段の生活の中でやるとなるとなかなか

困難が伴います。だいたい、火を焚くことは住宅地の中では不可能だし。

農場に学校があるキララだからこそできることです。農場は生み出す場です。まさにあるものが宝の山に見えるくらいに、今年は作ることに重きを置いてやっていこうと思います。つくれること、もつと誇りにしたいです。作るというか、育つというか。



冬の学校

河原 駒

今回の白州シアターで、「ソイレント・グリーン」という映画を観ました。チャールトン・ヘストン主演の古いB級映画です。舞台となる未来の世の中は食料も自由に買えず、とある会社だけがその権利を握っています。人々はソイレントグリーンというビスケットのようなものを食べて生きていて、殆どの人は生野菜や肉を見たこともないのです。それらは貴重なものとなって人々の目に触れる事もないのです。そしてこのソイレントグリーンの原材料は実はヒトだったのです！これは物語の最後に暴かれるのですが、この原材料を手に入れる目的で安楽死を勧める場所があり、ここに来ると昔（ようするに現在）の美しい世界の映像が流され、人々はそれらを観ながら静かに息を引き取る・・・。

なんとも恐ろしい内容なのですが、環境破壊と言われる今でさえまだ美しいと思える現在の地球。それがいつかは「美しかった地球」と、過去形で言われるようになってしまつては本当に遅いのだ、というのを知らせてくれる内容です。随分古い映画ですが、未来を予言するかのような内容でびっくりです。この映画を最後まで観たのは1, 2, 3年男子。

内容もちゃんと把握していて、次の日の食卓で「これ、ソイレントグリーンだったりして。」などとギャグをとばすほど浸透していたのには笑いましたが、子どもの心にはどのようなうつつたのでしようか？

冬の学校プログラム報告

奥地拓生

今年の冬の学校は、初日から2泊の部分参加でした。まずは駒ヶ岳神社に初詣に行きました。にぎやかな集団でのお参りが終わって、境内が静かになったところで、昔の日本人は、森や水や岩石と人間との関係を肌で感じていた、ということをお子供たちに話しました。それが甲斐駒ヶ岳という一つの山を、そのまま神様（神社）としておまつりしている理由だということをお伝えしました。

次の日はスキートの指導に加わりました。今年は全く滑つたことがない子どもが少なく、またその2人はすぐにうまくなりました。そこで私は小学生男子の、初級の腕前の子供たちと一緒にスキーを楽しみました。彼らは午前中こそおとな

しく、傾斜のゆるい初級コースで満足していました。しかし昼食も終えたころにはゆるいコースにも飽きて、次第に高いところのゲレンデに行きたくなってきます。多間が特に勇敢で、中級の25度ぐらいの傾斜のコースに挑みたいというので、一緒に行きました。彼にはなかなか大変なコースで、休み休みおりにきてだいぶ疲れたようでした。ゆるいコースに戻りたいというので、一人で帰って来たのですが、そこで信之助と出会う意気投合して、二人だけでもういちど中級コースのリフトに乗ってしまいました。

多間は一度行っているコースなので降りてくるのができたのですが、信之助は途中で怖くなって立ち往生してしまいます。そろそろ帰る時間になっても二人の姿が見えないので、一緒だと確信してコースを探し回っていたところ、事態を知らせるために一人で降りてきた多間を見つけました。信之助はその後に、スノーモービルで降りしてもらってきました。あとで一人ずつに、二人だけで中級コースに行った経緯を説明させて、たっぷり説教しました。多間が自慢して、信之助がもう一度行けるとおぼったこと、二人の合意が成立したようです。この二人は奇妙に仲が良いので、二人だけで高いところには行かないように、あらかじめ釘をさしておいたのですが、駄目

でした。

この日の夜に、甲斐駒ヶ岳の生い立ちをテーマにした、自然科学の講座を開きました。まず、恒例のNHKのドキュメンタリー「地球大紀行」のヒマラヤ誕生の巻の映像を見ました。エベレストはインド大陸とユーラシア大陸の衝突によって誕生したことが迫力ある映像で示されました。次に、日本でもヒマラヤのような陸地の衝突が起きていること、この



衝突によって三列の日本アルプスが誕生したことを写真や図で説明しました。甲斐駒ヶ岳はこの南アルプスの一部です。白州の水をつくる山の誕生にまつわるドラマは、もちろん昔の人は知るよしもありませんが、その壮大な過去の物語の結果を肌で感じていたことが、駒ヶ岳が神様になった理由の一つかもしれません。

食の学校

井上忠彦

去年の夏や秋のきららの学校に来た子供たちが、この冬の学校まで数ヶ月会わなかった間にずいぶんと変化しているのに驚きました。

この冬の学校は食に関するプログラムが多い学校でした。秋山校長講座の飢えの問題の話、餅つき、根菜料理、コロッケ・味噌・麴づくり、白州シアターでの「シェイミーズキッチン」鑑賞など、それぞれに反応がよく、広い意味での「食育」を子供たち自身が求めているような気がしました。

意外なことに、子供たちは料理をすることを楽しんでいました。たとえばコロッケづくりのとき、大人子供いっしょになって文句をいいあいながら、コロ



ヶの種をこね、小麦粉、卵液、パン粉をまぶして完成させていく過程でも、いつも飽きっぽい低学年男子が最後まで共同作業をしていました。でも聞いてみると、自分の家ではあまり親の料理を手伝わないらしいのですが、やはりこれは大人数でいっしょにやるからでしょうか。（この時の映像はホームページでご覧いただけます。 <http://www.hakusyuu.jp/kitata/gallery/v-index.html>）

去年の春のきららの学校で、子供たちが自分で定植したジャガイモ。それを去年夏の学校で収穫し、この冬の学校ではそれをコロッケにしてみんなの胃袋に収めました。残ったイモはまた今年の春に種芋として定植され、夏の学校の強い日差しのもとで収穫されることでしょう。

「冬のキララでの感想」

駒崎美波



わたしは、冬のキララが初めてです。冬のキララでは、七草がゆやせり田でスケートなど楽しい行事がたくさん。

その生活はいかにも自然生活。自宅では味わえない友達との大切さ。わたしが一番心に残ったことは、せり田でのスケート。

たくら5cmの氷が一面にはり、中がすきとおって見えます。ただのくつですべると、「キュッキュツ」と音がします。

一番大変だったことは、もちつきとコロッケ作り。もちつきは子供もやり、ちいさなきねでつきます。たきたての米をすりつぶした物をつ

きました。思っていたよりかたく、すぐつかれてしまいました。

コロッケ作りは、100こくらいを、いろいろな形にしてあげました。ハート、三角形など、いろいろ作って楽しかったです。

ゆう気を出して苦手なニワ鳥ごやに、それも一番に入りました。つかれていたかったけど、いっぱい取りました。

その後、べるが温泉に入りました。外の温泉はともきもちがよかったです。

夜では、おくちさんの話があったり、えい画を見たりしました。ニュースは、図書館の近くの森で、やせいのサルを見ました。

スキーは足がいたくなりました。香織や花、お姉ちゃんとなすべりました。山の上はすごくいいながめでした。

このような生活の中で、生きる事とは、学ぶ事とは、自分にとっても大切なことだと思えます。春・夏・秋・冬では、

それぞれ学ぶ事はちがいますが、すべて自分で体験する事だと思いま

す。今年の冬のキララは、いろいろな事を

学びました。来年のキララは新しい発見を、体験を目標にし、がんばりたいです。

冬の学校

大久保多聞



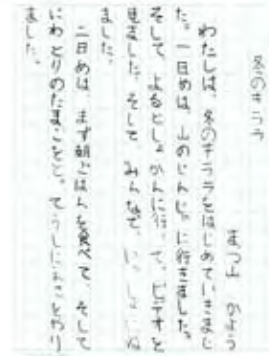
ぼくは、スキーが一番たのしかったです。上級コースで足をすべらしてころびました。するとスキー板がはずれて次にストックがはずれて急な坂をころがりおちていきました。白州シアターではジェイミーズキッチンという映画を見ました。もちつきでぼくはしょうゆもちしか食べませんでした。けいしゃではにわとり



をだいたいつつかれました。セリ田でスケートをしてこおりをいっばいわりました。終

「冬のキララ」

まつ山 かよう



わたしは、冬のキララをはじめていききました。一日目は、山の神社へ行きました。そしてよる、としよかんに行つて

ビデオを見ました。そしてみんなでいっしょにねました。

二日目は、まず朝ごはんを食べて、そしてにわたりのたまごをとって、うしにえさをやりました。

そして、にわたりのたまごがとりおわってへやにもどつて、スキーの準備

をして、スキーじょうにいつてすべりました。

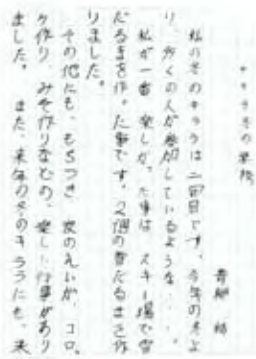
ひさしぶりに言ったのでさいしよは、ころんでばかりいました。そしてなん回かやって、そしてころばなくなりました。

そしてお昼になったので昼ごはんをたべました。そしてまた、たまごとりをしました。

三日目は、まずたまごとりをして、帰りにせり田でスケートをやりました。そしてよる、おんせんにいきました。とてもたのしかたです。

キララ冬の学校

青柳結



私の冬のキララは二回目です。今年の冬より、多くの人が参加しているような…。

私が一番楽しかったことは、スキー場で雪だるまを作ったことです。2個の雪だるまを作りました。

その他にも、もちつき、夜の映画、ロケットづくり、みぞづくりなどの、楽しい行事がありました。また、来年の冬のキララにも、来たいと思っています。

次には、スキーでなく、スケートに行きたいな…。それに、次のらくがきは、少々パワーアップして書きたいと思います。

とても、楽しいキララの四日間でした。



冬のキララですごした日

なかね ゆきみ

わたしは、冬のキララははじめてなので、さいしよはよくわかりませんでした。



でも、しっている友だちがいたのでやるのがとてもよくわかりました。

そして、はじめの1日目は、山のじんじやに行きました。

その日のよるはとしよかんで、ビデオを見ました。ちよつとこわかったです。

2日目は、朝はやくにたまごとりに行きました。とても、きれいなたまごばかりでした。そのあとはせり田でスケートをしました。

さいしよは、とてもすべるように

かんじましたが、あとからなれてきて、ふつうにすべれるようになりました。

つぎは、スキーにいきました。わたしはスキーにいったことがなかったのでぜんぜんすべれませんでした。でも、おそわつたらちよつとすべれるようになってとてもうれしかったです。また行きたいと思いました。

そのあと、お昼ごはんを食べてまた、たまごとりに行きました。

その日のよるは、りょうりのビデオを見ました。

3日目の朝は、にわたりのこやにはいってたまごとりをしました。ちよつとこわかったです。

そのあと、おみそとコロッケをつくりました。とてもおいしくできたとおもいます。4日目、ついに帰る日になりました。

たまごとりなどをしていまは、さく文を書いていきます。4日間をふりかえってみて思ったことは、しぜんはとても大切できれいなところだと思いました。

また、冬のキララに來たいです。

冬のキララのかんそう

中村 香織



わたしは、冬のキララは、2、3

回目ぐらいいです。1日目は、お昼のお弁当を食べてから少ししたら、こまがたけじんじやへ行きました。入って一番最初にしたものは、おきよめの水で、手を洗う事です。まず左の手を洗いました。次に右の手を洗って次に口をそそぎました。夜になったら、ビデオを見ました。だけど、ビデオがすごい気持ち悪いので、とちゆうで部屋に帰りました。2日目は、朝食を食べた後にさむで、にわとり小屋に入りました。だけど、



にわとりがいっぱいで、こわかった
 でした。それに、にわとりがつつい
 てきたり、歩いたりしたら、にわと
 りが追いかけてきて、こわくて小屋
 の外へ出ました。その後にスキーを
 しました。一回目は、いっぱい転ん
 だけど二回目からは、一回も転びま
 せんでした。つかれたので、休んで
 いたら、スキー板をどこかにおいて
 いたのをわすれて、さがすのが大
 変でした。二日目の夜は、おうちさ
 んの話と、ジエイミーズクッキング
 一話と二話を見ました。三日目は、
 朝食を食べて、さむへ行きました。
 昼ぐらいにべるが温泉へ行きまし
 た。そしたら、真菜ちゃんが、すご
 い足をいたがってました。三日間楽
 しかったのは、鉄はがしとしんのす
 けたちに落書きすることです。今年
 の春もキララに行きたいです。

冬キララ

林真菜



わたしは、キララ冬の学校に来る
 のは初めてで、夏の学校とはぜんぜ
 んちがう風景の学校を見て、びっく
 りしました。雪は少しだけ積もっ
 ているし、わたしの住んでいるとこ
 ろより、ずっと寒いし、行ってすぐ
 はなかなか慣れませんでした。で
 も、夏の学校と同じ班だった人とか、
 知っている人もけっこういました。
 キララ冬の学校で一番楽しかった事
 はセリ田のスケートです。ころぶと
 痛いけど、自分の靴でスーツとすべ
 れるし、寒いけどひんやりとした空
 気がとても気持ちよかったです。春
 夏秋冬の良さを味わえるのがキララ

のいいところかな?と思いました。

冬のキララの学校

安藤和也



今年の冬の学校の中で一番楽し
 かったのはスキーです。去年の冬の
 キララでスキーをやっていました。
 それが楽しくて、今年の冬のキララ
 に来ました。

スキー場についた時、はじめに中
 級コースに行きました。リフトに
 乗って中級をすべりました。見た目
 よりけっこう急でした。2、3回く
 らいすべり、中級コースがなれてき
 ました。次に上級のリフトに乗りま
 した。乗っているときに、すごくド
 キドキしていました。ものすごく急
 で止まるうとしても、止まれず、何



回か転びました。こわかったけど、楽しく、また上級コースをすべりました。二回目は一回目よりすこしこわくなかったけどやっぱりこわかった。最後まですべることができ、昼ご飯を食べ午後にもすべって帰りました。

へ1月6日く

菊池 信之介



ぼくは1月6日の午後ごろ、コロッケを作りました。カレー味と、ポテト味があって、その2つの味を作ります。ぼくは、小麦粉をつけるかかりです。最後に食べたコロッケは、おいしかったです。

キララ冬の学校 (二〇〇八)

駒崎 美帆



私は冬のキララは、はじめてで夏の学校とともちがっていて楽しかったです。

一日目は、もちつきとこっじをやりました。もちつきは、つきたてのおもちがビヨーンとのびとてもおいしかったです。こっじは二回目だったけれど、大きな機械で米を洗うのはとて力がいり、あとでぐたぐたになりました。

二日目は、朝からけい舎の卵とりでした。ニワトリの中にはいってキヤーキヤーさわぎながらとりました。けい舎の後に、スキーをやりに行きました。最初に、初中級からすべりはじめて、すべりはじめたとた

ん、雪がざらざらだったので、いきおいよくザート、すべってしましました。お昼ごはんを食べてからも5回ぐらいすべって、けっきょく最後まで花ちゃんすべっていました。あとですべった数をかぞえたら、なんと十一回もすべっていました。

三日目は、朝のさむで、けい舎と牛のせわと、サンチュとりをしました。けい舎と牛のせわまではよかったけれど、サンチュとりはへとへとになりました。夕方はコロッケづくりとみそづくりをした後に温泉に行きました。るてん風呂はとも気持ちちがよくてうとうとしてしまいました。

四日目の朝はまたサンチュとりをしました。もうぐちばっかりいっていただけで最後は、笑いながらそれたのでよかったです。そのあとは、鳥の羽がまざったひ料をやりに行きました。この冬はとても楽しい冬のキララになってよかったです。



楽しかったキララ

駒崎 孝広



ぼくはキララにきて一日めにもちつきを、しました。ぼくは、少しもちをつきました。もちができてから、きなことなつものもちを食べました。二日スキーに行きました。

さいしよに中きゅうコースをしました。

三かいすべりました。一かい目は、ころんでぼっかりだったけど、二三かい目はじょうずにになりました。三日目はスミエけい車に行きました。おんせんに行まえに大がた、けい車に行きました。おふるにすぐいきたくてたまんなかったからすぐたまたごとりがおわりました。くるまのっておんにいきました。おんせに

はいるまえにからだをあらいました。そのふるや中のふるにはいりました。

「冬の学校」

中里 啓子



私は冬のキララに来るのは3回目でした。私が4年生の時、初めて冬の学校に来ました。ですが、セリ田でスケートをしていたら、転び手を折り、次の日のスキーに行けませんでした。そして今回、やっとスキーをしに行くことが出来ました。しおりちゃんやともこさんなどいろんな方々に長い時間をかけて教えていただきましたが、ちゃんとすべれずに

うとうスキーの時間が終わってしまいました。来年にはちゃんとすべれるようにリベンジしたいと思っています。

スキーの他にももちつきやみそ作りなどたくさんのをしました。とっても楽しくて、アツいうまに四日間が過ぎ去ってしまいました。また今度白州に来ようと思うのでその時はよろしくおねがいします。



キララ冬の学校（二〇〇八年）

南雲 花



私はキララ冬の学校は、3回目です。

一日目はまず、もちつきをやりました。その後に、私達高学年だけこうじをつくりました。自分達でつくったおもちを食べました。すごくやわらかくておいしかったです。

2日目の朝のさむは、けい舎へ行きました。ニワトリがたくさんいる中へ入って、卵をとりました。すぐくつつかれて意外にいたかったです。さむの後に、スキー場に行つてスキーをやりました。最初に初中級を何度もやっていました。人口雪でザラザラしてすべりにくかったです。でも、かな

りひさしぶりにやったのでスピード

が出すぎて少しこわかったです。午前中の時間はほとんど初中級しかやっていなくて午後は中級をやるうと思ひ、午後は中級をやってみました。スピードが出すぎて大変でした。午後はみんながもうもどつたのを知らなくて最後の最後まですべっていました。すべつた回数をかぞえてみたらなんと十一回もすべっていました。すこしつかれたけど、すこく楽しかったです。

3日目の朝のさむは、まずけい舎で卵とりと牛にえさをあげたり水をあげたりしました。その次にサンチュをとりました。サンチュは美帆ちゃんと協力してやったらすぐに終わりました。夕方は、みそづくりとコロツケづくりをしました。私はコロツケづくりではパン粉をつける係をしました。その後に温泉へ行きました。気持ちよかったです。作ったコロツケは夜ごはんに食べました。おいしかったです。

今年のキララ冬の学校は昨年の冬の学校より知っている子が多くて楽しかったです。

冬のキララで

楽しかったこと

松本拓巳



2008の冬の学校で一番楽しかったのはスキーです。スキーではまず中級をしました。ちよつとむずかしかったけど出来ました、上級はまだ一回もやったことがなかったけど挑戦してみました。でも角度が急すぎて一回目に一度転びました。でもめげずにあと3回やって出来ました。中級コースも楽々できるようになりとてもうれしかったです。次は上級も転ばないように練習したいです。でも上級はめつちや急で、めつちやこわかったです。他にも色々なプログラムがあつて楽しかったです。来年も行きたいです。



「初めてのキララ」

半田千裕

私は、初めてのキララでした。もともと泣き虫の私だったので、泣いてしまうんだと思っていました。でも、キララの学校についてから、青やぎゆいちゃんと、あつ美こずえちゃんと三上あやのちゃんと友達になりました。

着いたら荷物整理をしたらすぐに、玉子とりに出かけました。最初はあやのちゃんと外でまっついていましたが、おもいきつてにわとりごやの中に入っていきましました。すると、すぐに、にわとりがよってきて、とまどったけど、あやのちゃんか、

「動かないと、つつかれるよー！」
 と言われて動きました。初日はとてもこわかったですが、二日目からは楽しくなりました。

私がこのキララで一番楽しいと思っただのは、しいたけの「しょっきん」です。

一番最初の私の本音は、「えー。こ

れ全部やるのー。」といやだと思っ
 てやっているとなんだかりズムに
 のってきて、とても楽しくなりまし
 た。

毎ばん、夜に、星を見て、私が住
 んでいる横浜より、10倍ぐらいの
 星が見えて、とてもきれいでした。

初めてで、とても楽しい、キララ
 春の学校でした。

「おいしくなーれ」アーンド

菊池信之介

エイプリルフルの4月1日に、シ
 イタケ植菌をしました。一本の木に
 二〇こぐらいあるからいれるのがた
 いへんで、6まいやららないといけ
 なかったのに、2まい半しかできま
 せんでした。まず＊ーコメ。その
 夜、エイプリルフルだということ
 を思いだし、うそ八百言いました。
 ぼくが言った中でいちばんおもしろ
 かったのが、「バラのかおりのオナ
 ラをしたことがある」です。そのあ
 と、へやの中でけんかしようと思っ

たら、相手が、「もとの世界にもどっ
 たぜー！」

とか言ってはなしがつうじなくて、
 次、二回目の＊。ニワトリやヒヨコ
 もだっこできるようになりました。
 とてもおもしろい5日間でした。

「なくし物が多かったキララ☆」

青柳 結

今回のキララは、なくし物がとく
 に多かった。最初の日に、かみゴム
 をなくし、2日目にはくつ下をなく
 し、3日目には、上着をなくし、最
 終日には、新品の大切な
 消しゴムをなくしました。そして、
 最後のそうじの時、いっしょうけん
 めい全部見つけた。という、ひじょー
 に大変なキララでした。そしてジャ
 ンパーとパジャマに、ニワ鳥にふん
 をかけられるという、ひじょーにふ
 ゆかいな時もありました。けれど、
 その反対に、楽しかった事は、食べ
 れる葉を取りに行った時、のどがか

わいた時、水を求めて、しんのす
 け、たもん、おとさ、だいき、けい
 とぼう険した事がとても楽しかった
 です。

そして、山に向って「やっほー」と
 言って、山びこを楽しんだり、
 デカイひよこをつかまえたりと：。
 楽しかったけど、少しあわただしい
 キララでした。

「天地水牛鳥白州！」

大久保 多聞

僕は、一番楽しいと思ったのは、
 森のたんけんです。ぼくがたいちよ
 うで、森の中を進んでいくと川に出
 ました。そのまま上流に上っていつ
 て二手にわかれているんな
 ぼうけんをしました。その日はエイ
 プリルフルでいるんなうそをつき
 ました。

「ひよこをさわったよ」

中田 けい

四月一日（水）の朝、たまごとりのおとひよこを見に行きました。ひよこはすばしこくさわりにくつとれませんでした。でもしんのすけとはさみうちしてひよこを一羽とれてしんのすけも一羽とりました。それから大きが「ぼくもひよこをとりたいたからって。」

言ったので大きとぼくではさみうちをして大きも一羽とりました。またにがして二羽目をつかまえました。

「四泊五日」

渥美 梢

三年ぶりのキララの学校。初日は名前と顔が一致しない人が多かった。笑
畑作業は思っていた以上に楽しく感じる事が出来た♪

寒かったり、おなかが減ってたり、キツかったことも多かったけど、帰って来てからの

お風呂、夜ごはんは最高だった。次いつ白州に行けるかわからないけれど今日つくった思い出は忘れないでいたい。

「滞在したのは一泊二日」

中里 啓子

私は、キララ春の学校に、一泊二日という短い間でしたが参加させていただきました。

あまりすることもなく特に思いでもないのですが…でも子供達とふれあえてよかったです。

レタスの定植ができなかったことや、お風呂に行けなかったこと…いろいろ残念なこともありましたが楽しいこといっぱいあってよかったです。

また、楽しいコトを見つげにキララの学校に行きます！それまでくさばあー！

「キララ春の学校」

三上 綾乃

私は、キララの学校に来るのが、3回目です。4年生の夏と秋と、今回の春。

今回の春の学校から「キララの日記」を書き始めました。5日間の事をちゃんと書きました。

1日目から5日目まで、朝と夕方、二ワトリのたまご取りをやりました。最初は、

「ギャー、ゆいたすけてーー。」とさけんでいました。

電車をおりて「西国分寺」について、知っている人は、すみえさんと中田けいさんと、きくちしんのすけくんだけで、けいくんのおねえさんの、れいもきてなくて、夏初めて友達になった、まなもきてなくて「春の学校の人は、少ないのかな？」

と思いました。すみえさんが、「初めて来た、半田ちひろちゃんです。仲よくしてあげてね。」

と、ちーをしよつかいしてくれて、

春の学校では、4月から、高校生の、あつみこずえさんと、友だちになりました。電車の中では、こずえとちーと、前から知っていた友だちのようになかよくなりました。

「これから5日間てゆうきがしないよなー。」

とっていました。

キララについて、おべんとを食べました。大自然の中で食べる、ママの作ってくれたおべんとは、とってもおいしい！！

自分たちのへやをとちゅうでこうかんしました。4月1日に、高校生が、3人来るので大きいへやへいどうしました。

2日目には、夜ごはんをみんなで、うどんを、作りました。私は、やらなかった…

3日目は…3日目は…たまごとりをしました。秋と同じように、くつひもをみみずましがえられて、つつつかれました。

と思います。

4日目は、レタスのナエをうえました。あと、たまごとりをしました。あっ！わすれてた。3日目におもちをつきました。カメラをもっていったので、いのうえさんに、おもちをついているところを、とってもらいました。

私は、写真をとるのがすぎて、キララの山や、へやや、みんなが、ヒヨコをだしている所もとりました。

カメラマンのうじいえたいこさんにも、いろいろな写真をとってもらいました。おもちをついている所や、ヒヨコをだしている所、ごはんを食べているところ。たくさんとってもらいました。そしてじゅうしよをおらいました。あとで写真をおくつてくれると、やくそくしました。だから、おくつてくれる写真を、とつてもとつてもたのしみにしてます。そして、私も、みんなをとつた写真をみんなにおくりします。私は、日記といっしょに、じゅうしよちょうももつてきて、みんなにじゅうしよをぎいて、みんなに手紙や、写真をおくりたい

キララにきたのは3回目だけど春の学校にきたのは、初めてで、とつてもたのしかったです。キララに、日記やカメラをもつてつてせいかいでした。

春の学校は、おもちつきや、てんとう虫とりや、レタスのナエをうえて、いろんな事をやりました。お花のたねうえをしたり、ヒヨコをだいたり。でも、ヒヨコとはいえないほど大きくなって、おやのニワトリと、せいかくがまぎやくでした。ニワトリは、人のあとをおつてくるが、ヒヨコは、

「ユルユル」といつてにげて行く…

このヒヨコは、だいたい体がニワトリで、鳴き声がヒヨコ。ヒヨコをだくと、こどろが、手に、ドックンドックンかんじてきます。

大きい、ヒヨコの中に、小さい、ヒヨコらしいヒヨコがいました。みんな、大きいヒヨコは、同じくらいにうまれたと思いますが、その小さいヒヨコは、まだあまり茶色の毛が

はえてなくて、白色と黄色の毛のヒヨコでつかまえたけれど、大きいヒヨコと同じようにすばしっこくて、つかまえたけれどつかまらず、はさみうちをしようとしても、つかまえられるなくて、つかまえたかったです。

春の学校には、キさんやチエさんやケンケンやめいこさんや、かぞえきれないほど大人もたくさんきていました。

またキララにきたいと思います。でも、今度は夏は長いので秋の学校かな。

「にわとりのひよこをさわった」

あおやぎ だいき

はじめて、にわとりの、ひよこをさわったとき、ぼくは、あたたかいことと、かわいいと思いました。

ぼくは、体がいに、足を下に出して、かかえるようにだったので、あたたかいとわかりました。

ぼくは、にわとりも好きだから、にわとりの子どもも、かわいいと思

いながら、へやに入ってみたら、ほんとうにかわいいから、だきしめました。ぼくは、こんどの夏のキララに、ひよこを見たいと、思いました。





2008 キララ冬・春の学校文集

発行 **キララ新聞社**
山梨県北杜市白州町横手 2259
白州郷牧場内

TEL: 0551-35-0131・4520

FAX: 0551-35-0132

E-mail: info@hakusyu.jp

<http://www.hakusyu.jp/kilala/>